

令和6年度日立市総合計画前期基本計画有識者評価会議における主な意見等

1 目標指標の達成状況 意見なし

2 ひたち成長戦略プランの取組状況

ページ	委員からの質問等		質問等に対する事務局回答
	種別	内容	
P 4	質問	空き家利活用促進事業や山側住宅団地住み替え促進事業における実績の要因について説明願いたい。	<p>空き家利活用促進事業については、事業者や市民への制度周知の結果、補助件数が増加したと考えている。</p> <p>山側住宅団地住み替え促進事業については、市内の戸建て住宅着工件数の減少に伴い、補助件数が減少したと考えている。着工件数の減については、物価高騰による新築及びリフォーム等の住宅コストの増加も要因の一つとして考えられる。</p>
	意見	空き家対策については、本市で活躍される地域おこし協力隊とも連携し、進めてほしい。	
P 6	質問	<p>ごみ等排出困難世帯回収支援事業について、実績の増加は評価できる一方で、事業開始から4年経過し44件という実績についてはどのように感じているか。</p> <p>また、利用手続や対象者の条件など、敷居が高いと感じたが、そのような相談はあるのか伺いたい。</p>	<p>本制度は、家庭ごみを自分で集積所に運ぶことができない、要介護2以上のかたや肢体不自由または視覚障害2級以上のかたなどが対象世帯となるが、家族などの支援者や福祉サービスで対応可能な世帯は対象外となる場合もあるため、現在の支援状況にあると認識している。</p> <p>利用手続等については、訪問面会して諸事情を把握した上で説明しているため、手続に関する相談は寄せられてはいないが、今後も利用希望者に寄り添った事業として利用いただけるよう、状況に応じた丁寧な対応を心掛けるとともに、対象者の条件緩和については、御意見を踏まえ検討していく。</p>

ページ	委員からの質問等		質問等に対する事務局回答
	種別	内容	
P 6	意見	ごみ等排出困難世帯回収支援事業について、手続きが煩雑と感じるかたに対しては、関連する部署の職員が利用希望者を訪問し個別対応することで利用を躊躇するかたは減るのではないか。	当該事業は地域の民生委員などにもご案内し、事業の概要や市の窓口などに関する相談対応についてご協力をいただいている。また、訪問面会の際は福祉担当課も同行し、他のサービスとの併用利用などもご案内しており、今後もきめ細やかな対応を継続していく。
P 7	意見	産前・産後ママサポート事業について、利用期間の延長により利用者数の増加につながったことは評価できる。今後、利用回数の増を検討してほしい。	産前・産後ママサポート事業について、利用回数を 20 回としているが、1 年間では利用しきれないといった意見を考慮し、令和 5 年度から利用期間を 2 年に延長した経緯がある。 利用回数については、利用状況や利用者の声を参考に検討していく。
P 7	意見	幼稚園を利用する保護者は、子どもが 3 歳になって入園するまで自宅保育により外との関わりも少なく、孤独を感じることも多い。また、日立市には転勤に伴い移住してくるかたも多く、知り合いが近くにない環境で子育てを行う世帯も多いことから、同境遇の保護者同士が交流できる場の設置を検討してほしい。	子育て世帯の相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場として、子どもセンターや子どもすくすくセンター、公・私立保育園等の子育て支援センターなどを市内 22 か所に設置している。各施設には専門の相談員等を配置し、子育て家庭の孤独感、不安感の軽減が図れるよう、相談支援を実施している。 その他、社会福祉協議会の事業であるおもちゃライブラリーが各交流センター等 24 か所で実施されており、おもちゃ遊びを通して他の親子や地域との交流を図っている。 引き続き、子育て家庭が交流・相談できる場の充実と広報に努めていく。
P 8	意見	情報教育環境整備事業について、普通教室への電子黒板整備率が 100% を達成できたことは評価できる。 授業における電子黒板やタブレットの活用や ICT 機器の保守について、支援体制を構築し、子どもたちが分かりやすいと感じる授業づくりにつなげてほしい。	

ページ	委員からの質問等		質問等に対する事務局回答
	種別	内容	
P 8	意見	<p>中学生を育てる保護者の声として、小学生と比較し、中学生が放課後に安心して過ごせる居場所が少ないといった意見を伺った。児童館のように、誰もが自由に入出りできる場所を設置し、中学生にとっての居場所づくりを検討してほしい。</p>	<p>各地域への子育て支援施設等の充実に伴い、老朽化した児童館（2館）は廃止した経緯がある。</p> <p>中学生等の放課後の居場所については、学習室の充実に取り組んでいる。</p>
P 8	質問	<p>教育相談事業について、近年、定時制や通信制の高等学校を志望する中学生が増加傾向の中で、適応指導教室「ちゃれんじくらぶ」の運営は効果的だと感じた。</p> <p>当該教室における最大受入れ人数や当教室利用後に復帰したこどもの数等について説明願いたい。</p>	<p>最大受入れ人数は 20 名が目安だが、毎日利用する児童生徒は少ないため、令和 5 年度の登録人数は 26 名である（体験入級者含む）。</p> <p>普通教室に復帰した児童生徒数については、正確に把握していないが、10 名程度が復帰していると認識している。</p>
P 9	意見	<p>産業強化プロジェクトの分野で新しく事業を実施するかたへの支援は充実していると感じているが、既に事業を実施しているかたへの支援についても検討願いたい。</p>	
P11	質問	<p>中小企業国際認証等取得支援事業について、補助内容や対象対象の国際規格の内訳、当該事業の目標値について御説明願いたい。</p>	<p>当該事業は、中小企業の信用力を高め、取引を強化していくために国際認証等の取得に取り組む事業者に対して、補助率 1 / 2、補助額 100 万円を上限として補助している。これまでの実績としては、ISO 規格（ISO9001 や 14001 など）、KES、エコステージについて、平成 9 年度から延べ 136 件の補助を行ってきた。</p> <p>目標値は設けていないものの、中小企業の競争力向上に資する取組として、継続した支援を進めていく。</p>

ページ	委員からの質問等		質問等に対する事務局回答
	種別	内容	
P12	意見	<p>就業希望者と中小企業とのマッチングを図るため、女性や若者が働きやすくなるよう、トイレや更衣室の改修といった環境を整備した企業の事例紹介や、平日の昼間、短時間でも働けるような柔軟な働き方へ取り組む企業への支援を検討してほしい。</p>	<p>本市では、性別・年齢・国籍問わず誰もが働きやすい職場づくりとして、設備導入や施設改修等に取り組む事業者を支援しており、市報では、シリーズ「日立市でかがやく中小企業」の中で、事例を紹介するなど、関係部署と連携しながら、企業PRにも取り組んでいる。</p> <p>市内中小企業における「女性や若者が働きやすい労働環境」の更なる整備促進に向け、引き続き、事業者支援に取り組んでいく。</p>
P16	意見	<p>バスの利用に際し、車いすのかたやベビーカーを利用しているかたにとって利用しづらい車両が見受けられることから、様々なかたが利用可能な車両の整備を検討願いたい。</p> <p>また、電動自転車やベビーカーの使用に際し適した歩道や道路の整備について検討願いたい。</p>	
P16	意見	<p>日立駅前地区再活性化事業について、日立駅前におけるイベント参加者数の大幅な増加は評価できるが、市内には他4駅あることから、各駅におけるにぎわいの創出を検討願いたい。</p>	<p>市内JR各駅周辺等の空き店舗の利活用を促進する「まちなか空き店舗活用事業補助」をはじめ、空き店舗をリノベーションしたマイクロクリエイションオフィス「晴耕雨読」や「ミカエル」の活用による、新たなにぎわい創出にも努めていく。</p> <p>常陸多賀駅については、駅を中心に周辺整備を進めているところで、地域との連携を図りながら、まちの活性化に取り組んでいく。</p>
P16	意見	<p>ひたちBRTについては、宇都宮市のLRTを参考に、将来的なまちの姿やビジョンについて市民に示していただきたい。</p>	<p>現在、おさかなセンターから大甕駅、大甕駅から常陸多賀駅を結んでおり、3期計画も構想中である。交通ネットワークは、重要な課題の一つと認識しており、引き続き御意見をいただきたい。</p>

ページ	委員からの質問等		質問等に対する事務局回答
	種別	内容	
P18	意見	<p>コミュニティ活動アプリポイント導入事業について、まちのコイン「タッチ」が本年4月から本格的に導入され、現在 200 スポットの登録をいただいている。直近の事例としては市内花火大会の観覧席の確保にタッチを利用した。</p> <p>多くのかたに当アプリを活用いただき、コミュニティ活動が活性化することを願っている。</p>	<p>コミュニティ活動への若者の参加を促進することも目的に、当該事業を開始した。</p> <p>順調にスポット数、利用者数ともに伸びているが、まだまだ認知度が低いと感じており、積極的にPRし、地域において様々な分野で活用いただき、まちのコイン「タッチ」が循環する仕組みづくりを、コミュニティを始めとした関係団体と連携して取り組んでいきたい。</p>
P18	意見	<p>防災訓練推進事業について、ハザードマップに基づき、市内各地域の特性に応じた避難訓練が必要だと考えていることから、コミュニティでも様々な状況に応じた訓練を開催していきたいと考えている。</p>	
P19	意見	<p>市の施策やイベント等の観光PRについて、市外に住む方に情報発信し来市を促進することで地域産業の活性化を図ることは重要だが、市民に対しては地元を見つめ直し地元で楽しんでいただくことも重要だと感じている。</p>	<p>「ひたちらしき」のシティプロモーションは、市外向けだけでなく、市民の満足度を上げるためにも重要だと認識しており、引き続き様々な連携を図り進めていきたい。</p>
その他	意見	<p>当会議における意見も重要であるが、市民がどのように評価しているのかが最重要である。</p> <p>8月20日号の市報では、特集として、ランドセルの変更が取り上げられており、市報を活用した市の事業のPRは非常に有効だと感じた。</p> <p>今後も、市報を活用し市が進める事業についてPRし、市民評価につなげてほしい。</p>	<p>毎月2回発行の市報では、市として特にアピールしたい事業について特集を組んでいる。</p> <p>引き続き、市民に対する効果的なPRに向け、御意見をいただきながら、市民に寄り添った市報づくりを行っていく。</p> <p>なお、現計画は今年度中間年度を迎えたところであるが、市民による評価については、今後、次期計画策定に向けて、市民ニーズ調査を実施していくことになる。市民から通信簿的に得られた評価・意見等については、今後の施策展開に反映していく。</p>

ページ	委員からの質問等		質問等に対する事務局回答
	種別	内容	
その他	意見	各種事業の推進にあたり、SNSを活用したPRに注力すべきだと考える。若者世代は各種SNSを利用し情報を集めており、市報を活用した市のイベントや情報等の発信では効果的に届けられていないと考えている。また、市と大学が連携し市の情報を伝えていくことで、若者のイベントへの参加率が高まり、市政に対する理解が深まると感じた。	

3 登載事業の取組状況 意見なし

以上